

飛騨農林事務所の普及活動状況（飛騨版）

平成 31 年 4 月 25 日現在

今月の重点活動

■スナップエンドウ 現地研修会を開催（吉城地域）

飛騨地域では数年前からスナップエンドウを各地域で栽培しており、他産地から出荷がない期間（5～6月）に出荷しているため安定した単価で取引されている。

4月24日、吉城蔬菜出荷組合露地部会豆部のスナップエンドウ現地研修会が開催され、生産者19名が出席した。

研修会では、ほ場主である生産者から栽培状況について説明があり、霜害もなく順調に生育していた。また、農業普及課から今後の栽培管理について指導を行い、追肥と霜害対策の徹底を図った。

農業普及課では、今後も栽培指導を継続し、スナップエンドウの安定生産を支援していく。



【研修会にて技術指導】

多様な担い手づくり

■担い手 就農に向けてパワーアップ！！ ～第1回飛騨就農支援塾開催～

飛騨地域農業再生協議会（人・農地プロジェクト）では、飛騨及び下呂管内で研修1年目の長期研修生18名を対象に「飛騨就農支援塾」を開催した。

初日の4月17日には、長期研修生から自己紹介をした後に、指導農業士の東野満浩氏から「飛騨の農業者になるために」をテーマに、その他関係者からは「各種支援事業」「農作業安全」「農業の基礎知識」等の内容で講義をいただいた。

飛騨就農支援塾2回目として、高山市で4月17日に、飛騨市では4月24日に、就農に関する各種支援策や各研修生の悩みなどについて研修会を開催された。今後、12～2月にかけてGAP、ぎふクリーン、労務管理、土壌診断、病害虫対策、農産物流通、植物の生理生態ハウスの建て方等、就農に必要な知識の習得を目指している。農業普及課では研修会の企画・運営に主体的に関わって支援する。

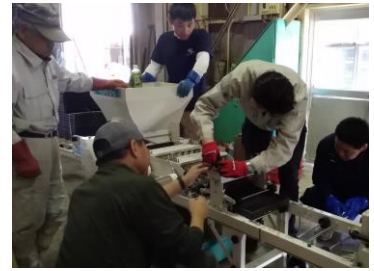


【就農に向けた決意を述べる研修生】

■ 白川村 水稲苗の播種作業が本格開始

白川村で水田農業の担い手として唯一となる農業法人では、水稲苗の播種作業が4月20日に開始された。以前は出芽苗を購入し緑化以降の育苗管理を行ってきたが、一昨年の育苗ハウスの更新を契機に播種作業から一貫して育苗を行うこととなり、今回が本格的な播種作業の開始となった。この農業法人では、村内の農家からの委託分を含め約8千枚を播種する計画であり、第1回目となる今回は、「コシヒカリ」を主として1千7百枚程の播種を行った。

農業普及課では、播種機等の作業機器の購入段階から助言を行っており、今年も播種計画の立案や種子消毒等の播種前の作業についても指導を行ってきた。水稲の育苗は病害発生等のリスクも大きいため、今後も巡回指導を充実させ、農業法人が育苗管理作業を習熟できるよう指導を継続していく。



【播種機の調整作業】

■ 飛騨地域トマト研修所 卒業生(3期生)営農開始 重点的な技術支援を実施

飛騨市では2年間の研修期間を終えた3期生3名(2経営体)が4月に就農を迎え、神岡町及び古川町の雨よけハウスでトマト栽培を開始した。

4月の季節外れの大雪に対する深夜の除雪作業や栽培の準備作業を乗り越え、購入苗の仮植が完了した。卒業生らは慣れない作業に少し戸惑いながらも、これまでの研修期間で実習した成果を発揮している。

農業普及課では、重点的な巡回によって栽培管理状況を把握するとともに、計画的な管理が実現できるよう技術的なアドバイスを行っている。



【育苗ポットへの灌水作業】

■ 夏秋トマト 丹生川トマト部会新規生産者研修会

丹生川トマト部会ではここ数年部会員数が増加傾向にあり、直近3年間で23名の新規生産者が就農している。4月17日に丹生川トマト部会事業として就農3年目までの新規生産者を対象に栽培研修会が実施された。研修会では基礎知識の習得を目的に農業普及課から病害虫及び農薬使用について説明を行った。今後も収量確保に向けた新規生産者に対する重点的な巡回指導を実施し、早期の経営安定をめざしていく。



【研修会の様子】

■ 認定農業者 新たに25名が認定農業者に

高山市では今年度、新たに25名の認定農業者が誕生した。4月9日に開催された高山市農業経営改善計画認定書授与式には14の経営体が出席し副市長から認定書が授与された。

新規認定者の営農類型の内訳は施設園芸19(トマト11、ほうれんそう8)、肉用牛4、果樹1、水稲1で、農業普及課は、市と連携して、新規に認定された認定農業者の経営改善計画の実現に向けて支援を行っていく。



【高山市農業経営改善計画認定書授与式】

■丹生川蔬菜出荷組合 若手生産者研修会

4月4日（木）、丹生川地区において、丹生川蔬菜出荷組合の若手生産者を対象とした研修会が開催された。

同地域にて、トマト・しいたけの栽培・加工等を行っている生産者を訪問し、こだわりの栽培方法や、GLOBALG.A.P. 認証を取得した衛生管理の行き届いた施設等を視察した。

その後、意見交換を行い、多くの従業員を雇用し、従業員の士気を高めるために、大切にしていることや取り組んでいることについて話を聞いた。

今後規模拡大や雇用拡大の可能性のある若手生産者にとって、有意義な研修となった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携して、若手生産者への栽培管理指導や規模拡大・労務管理に関する支援を行っていく。

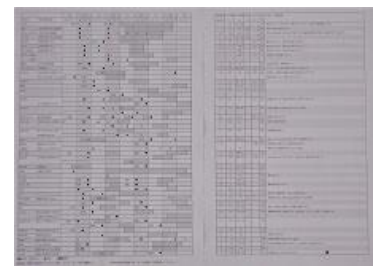


【視察研修の様子】

売れるブランドづくり

■道の駅朝日村農産物出荷組合他 野菜 41 種の簡易栽培暦で、出荷農家を増やそう！

農業普及課は4月11日高山市朝日町の道の駅朝日村で、農産物出荷組合の研修会を皮切りに、飛騨の野菜41種類の簡易栽培暦の配布を開始した。栽培暦には m^2 単位の農薬必要量の簡易計算法、野菜類に使える農薬一覧、および基本的な栽培のコツを示したほか、41品目に亘る野菜の播種・移植・収穫時期の目安や、施肥量や株間隔、必要な支柱の長さ等の基本的な情報を掲載した。飛騨地域には25の農産物直売所があるが、高齢化により、多品目をつくれる農家が減っており、直売所の魅力が薄れつつある。そこで農業普及課は、定年帰農者や農業に興味がある主婦が簡単に農作物栽培にチャレンジできるよう、この多品目栽培暦を作成し直売所に随時配布している。



【あるようでなかった！】

■夏秋トマト 高山トマト部会グループ別研修会実施

高山トマト部会では、全体を5班に分けて部会活動を行っており、4月12日に第1グループの年間の課題や地域により目標の検討を行った。

目標はグループ全員で単収10トンとし、それぞれ栽植密度の向上や後半の花房数の確保など具体的な手段も検討してもらった。会では皆で目標達成して「秋にはちょっといい店で宴会を」と呼びかけあい熱心なスタートとなった。今後、各グループでも月1回の現地研修会を行い支援していく。



【研修会の様子】

■ 蔬菜 **吉城蔬菜出荷組合関係機関・J A 役員との情報交換会**

4月11日(木)に吉城蔬菜出荷組合と関係機関・J A 役員との情報交換会が開催され、出荷組合及び関係機関から31年度の事業方針などについて報告があった。農業普及課からは、31年度の体制及び普及指導計画の概要について説明をした。

また、その後の情報交換では、災害に強いハウスづくりをするための指導や補助事業について、調製場の作業者が不足している中で産地を継続していくための支援についてなど、組合員から意見が上がった。

農業普及課では生産者の意見を吸い上げながら、取組みを検討・実行していく。



【活発な意見・質問が
された】

■ ほうれんそう **ほうれんそう共同調製作業場設置に向けた検討会を開催**

ほうれんそう生産においては、人口減少などに伴い調製作業を担う労力不足が大きな課題となっている。そこで、労力不足を解消し、今後もほうれんそう生産を継続するために、J A・飛騨市・県の3者で共同調製に向けた検討会を開催した。

機械化や日量の安定などにより、調製作業を効率化することで、労力不足の中でも現在あるほうれんそうの面積を維持していくことを想定しているが、誰が実施主体となるか、どこに調製場を設けるか、品質や日量の安定方法、機械の導入方法・負担など多くの課題が挙がり、具体的な枠組を検討していくことになった。

労力不足はさらに深刻になることが想定される中で、調製作業の効率化に向けて検討を継続していく。